

昔のお山参詣の話コ (津軽弁)



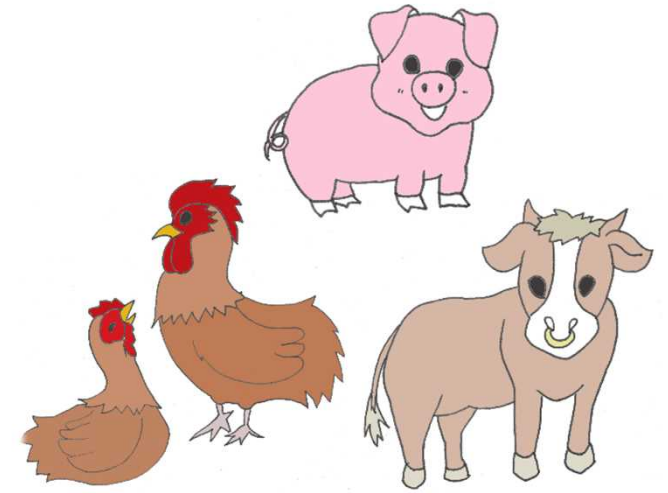
国土交通省 東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所
イラスト： やざわ ゆな
カラーリング：みやかわ みなみ

さあ子供達、
では今日は、お前達に、昔のお山参詣の話コバ語って聞がせるがな。



津軽の秋のお祭りは、まんず岩木山神社、それがら猿賀神社、そして小栗山神社の順序で開がれる。

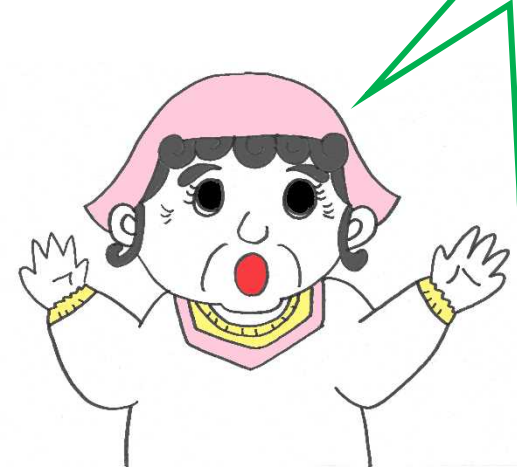
岩木山さお山参詣に行く人は、先ず、三、七、二十一日の間、四足、二足を食べないで、精進潔斎*（しょうじんけっさい）をしたもんだそうだ。四足、二足って言うのは、ほら、獣や鳥の事だ。



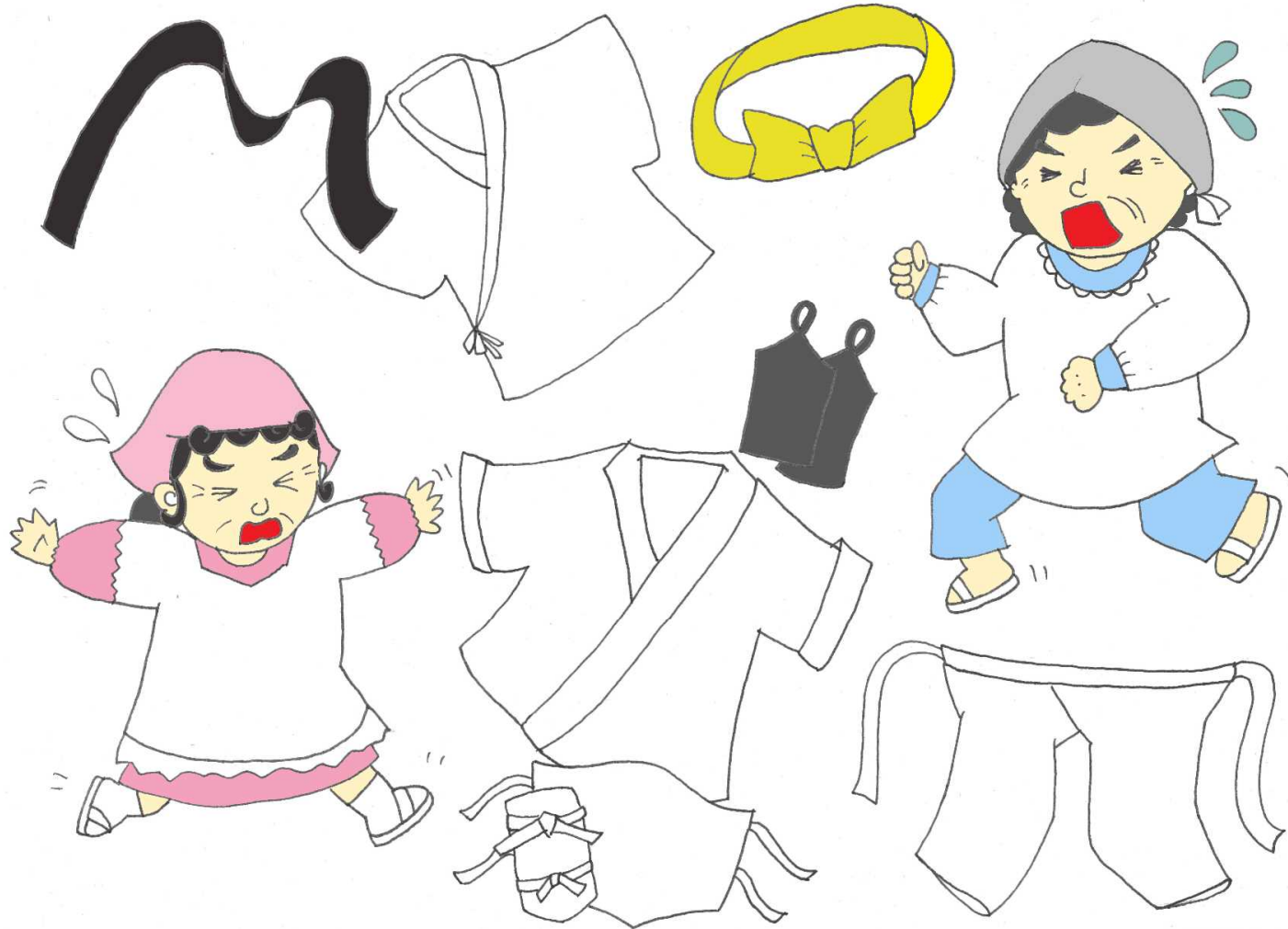
それから水垢離（みずごり）もして身を清めた。水垢離というのは、清らかな川の水だの井戸の水だのをかぶって、身も心も清々しくする事だ。

昔は水垢離に行く時でも、帰る時でも、笛太鼓の囃子コっけで、みんな並んで♪サーイギサイギって、唱えて行ったもんだんだど。この声コが、ほらー、遠ぐの村コからも、近くの村コからも、秋の夜空さ響いて聞こえてくれば、みんなお祭りの期待でワクワクどなっただ。

*精進潔斎とは、肉食を断ち、行いをつつしんで身を清めること



こうしてるうちに、お山さ奉納する五色の旗だの、岩木山神社で太い筆で書いた幟（のぼり）も出来て、ああ、それから、檜葉（ひば）の木を鉋（かんな）で長ーく削ったのを竹竿のてっぺんさゆわえた御幣（ごへい）も出来る。女達は、参詣の人達が着て行く着物だの、身のまわりの品物を、せっせと支度するのに大忙しだ。



さて、いよいよ、旧の八月一日になる。

その日の参詣人のいでたちはたとえば、まんず、肌にピタッと合う股引（ももひき）、肌襦袢、その上には筒袖で、裾が短くて、両側に切れ込みが入った、薄い綿入れの上衣を着る。

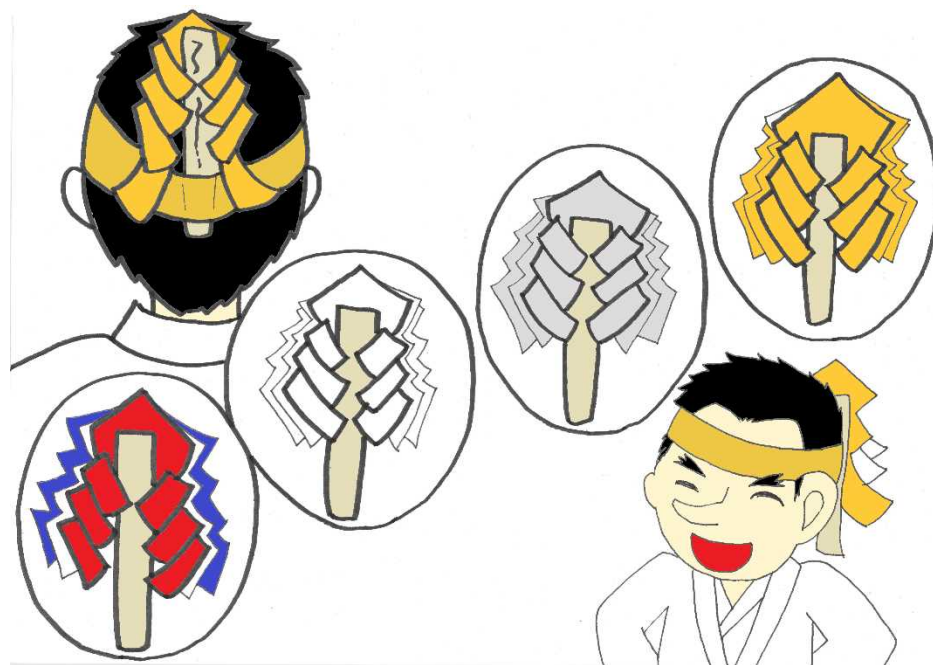
それなら、小巾の布を三まわし、帯代わりに巻いて、それば前で、キリッと結ぶ。

手甲つけて、脚絆もつけて、足袋はいて、草鞋もはいて、そして頭には、向こう鉢巻きをキリリッと結ぶ。

背中には、御神酒を入れた柳樽か、ふくべを一つ、お供え餅を入れた袋も背負って、前には腹当てのような頭陀袋（ずだぶくろ）を首から吊し、袋の両端につけている紐を背中に持って行って結んだ。

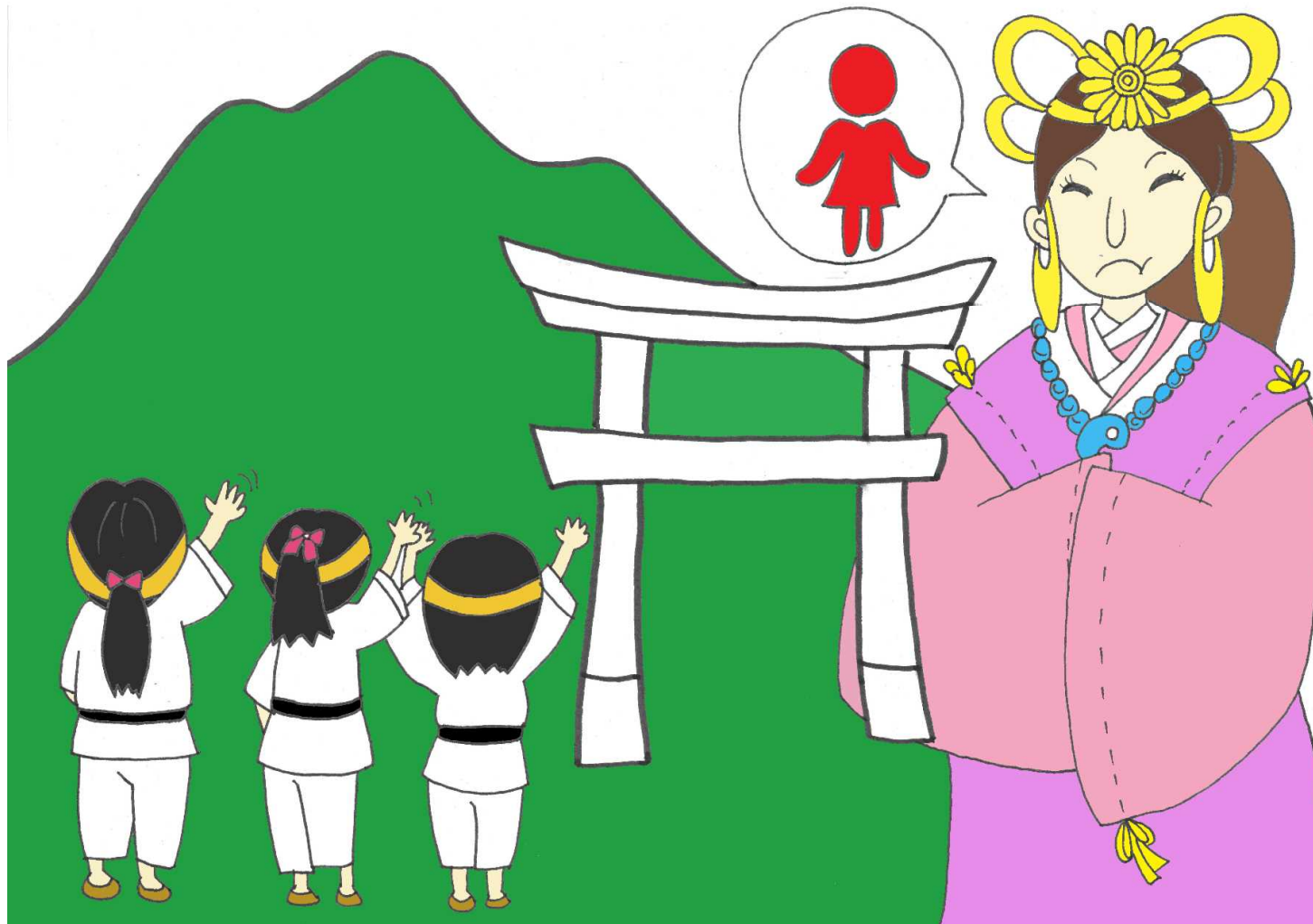


お山参詣には、伝統的な規定があつてな
初参りの者は、赤、白、青の御幣
二席目の者は、白紙の御幣
三席目の者は、銀紙の御幣
四席目からは、金紙で作った、小さい御幣を、
後ろ襟の所さ横に差し込むんだど。
金紙御幣の人は、ちょっと鼻が高いんだど。



小さい御幣持ちから順々に、若い者や大人達は、大つけえ竹の柄の御幣を、腹巻きにはんで持たせ、両手で支える。そして、その御幣持ち共が一行縦隊に並ぶ。大幟は、特に力自慢の若い衆が持つ。これあ、重いもんでよ。風がくれば倒れそうになるので、旗持ちのそばには、力糸を持った者が左と右に一人ずつ並ぶ。小さい御幣を持った人が先に並ぶ。若者や、大人達は、大きい竹竿の御幣を、腹巻きに挟んで、両手で支える。御幣を持った人たちが一行に並ぶ。

そして、おしまいの列には、下詣りする女達（おなごたち）が並ぶ。
下詣りというのは、お山の頂上（てっぺん）のお社まで行かないで、ふもとの岩木山神社
までのお詣りの事だ。
岩木山は女の神様だそうで、女が登ると、この神様はヤキモチを焼いて怒るのだそうで、
昔は女は頂上までは行けなかった。
最近では女でもみんな平気で登る。
別に、山の神様が怒ったという話も聞かぬえ。

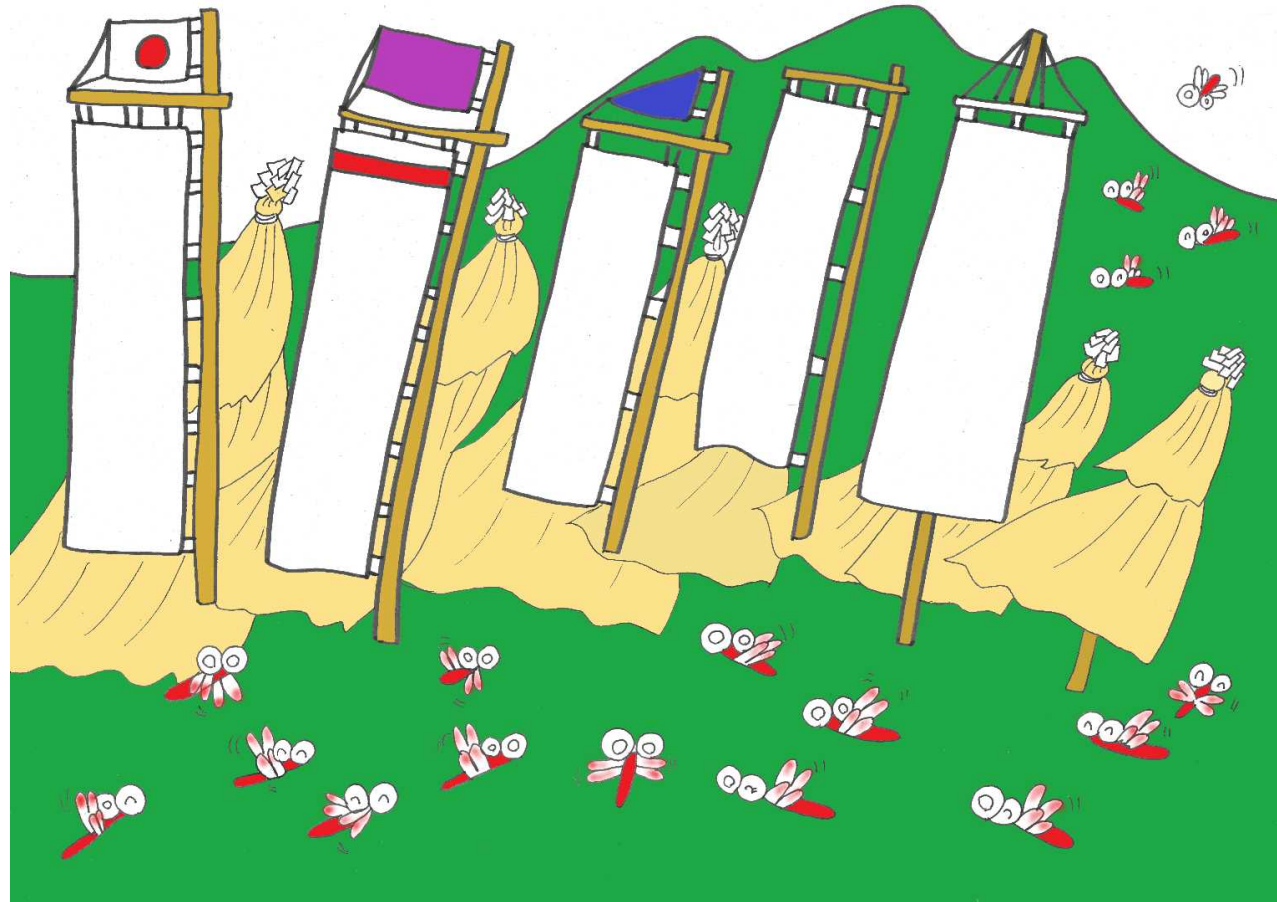


♪懺悔（さいぎ）懺悔（さいぎ） 六根懺悔（どっっこいさいぎ）お山八大（おやまさはずだい）

金剛童着（こんごうどうぎ）一々礼拝（いちになのはい）南無帰命頂来（なのきんみょうじょうらい）

て、何回も何十回も、この呪文ば、前と後ろに分かれて、一節ずつかわるがわる唱えながら進んでいく。

こうして、あっちの村から、こっちの村から、お山参詣の行列は、秋の澄みきった空の中でトンボがいっぱい飛んでるのを見ながら、稲穂のサワサワと揺れる中を、神社を目指してゆったりと、延々と進むんだよ。



百沢の岩木山神社の前は、沢山（いっぺえ）店コ並んでな、いやいや夜中中（よなかじゅう）賑やかだった。

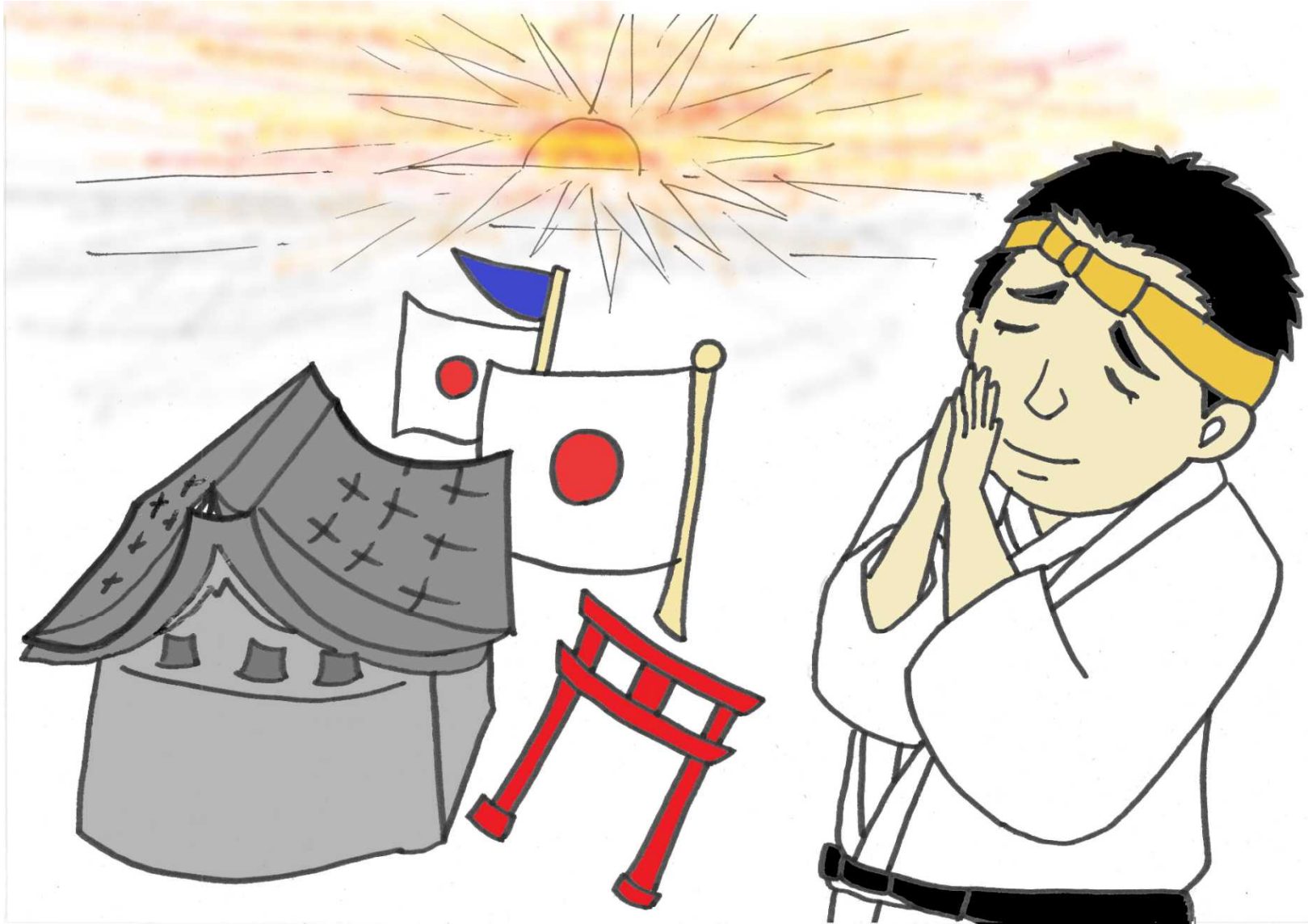
神社の裏の森の中では、若者達と娘達の、ロマンスなんかもあったりしてな。若い者達には、それも、この祭りの楽しみの一つだったんだべ。

麓の岩木山神社から、山頂の奥宮まで、夜中に登る参詣人たちは、松明（たいまつ）をともして登る。

その松明の灯は三里はなれた弘前の城下町からでも、長あい虫コのように見えるんだど。



奥宮にお詣りして、東の空を金色に染めて昇ってくるご来光を拝んで、今度は山を下ってくるんだ。
膝がガクガクとなるもんで、このことを『膝かぶで踊る』とか『膝かぶ笑う』などと言ったもんだよ。



帰りには

『ええ山かげだ、ア、バダラバダラバダラヨ』

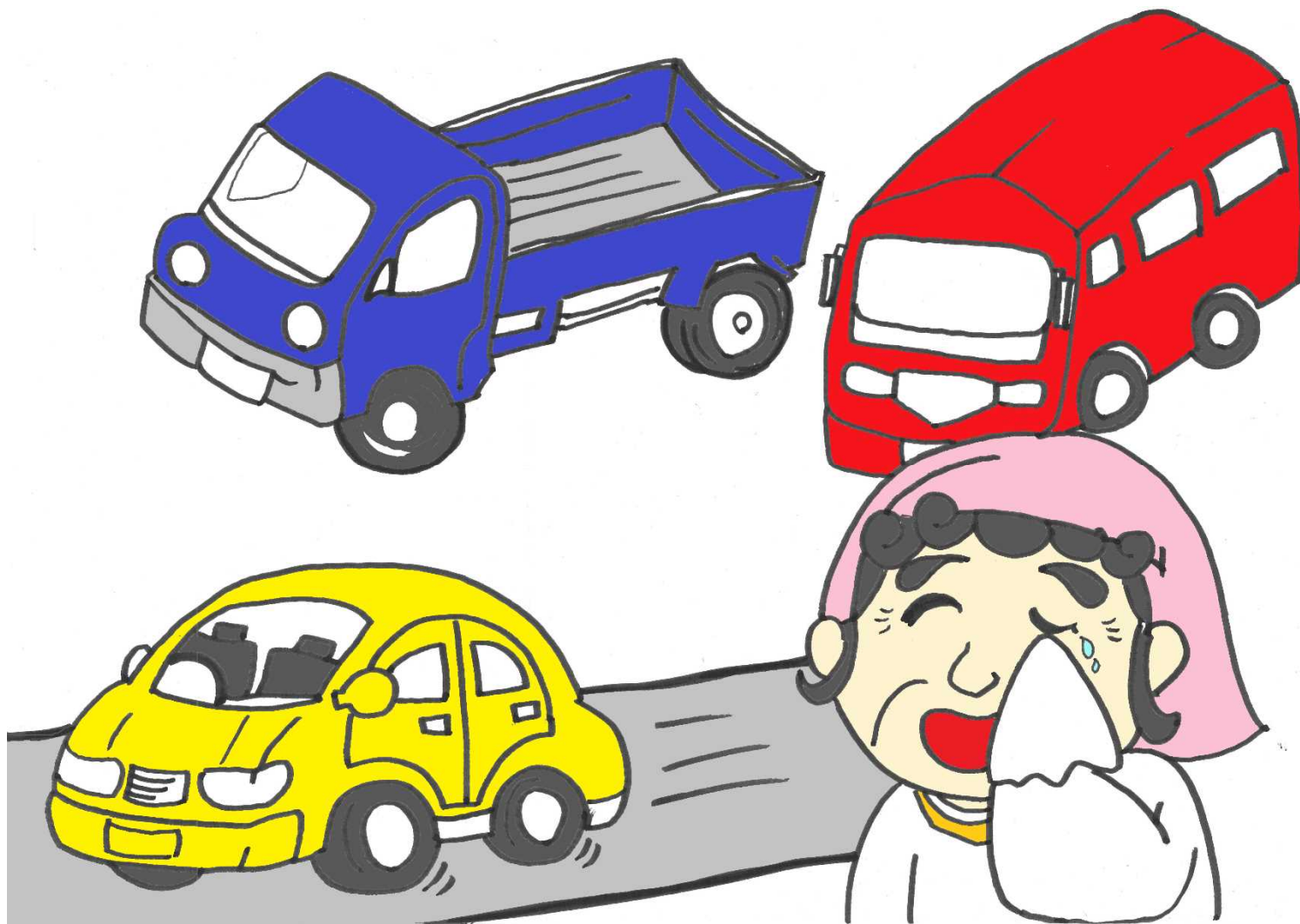
『朔日山かげだじゃ、ア、バダラバダラバダラヨ』

と囃しながら、右手にははい松の一枝を持って、お多福、ひよつとこ、狐、天狗のお面をつけて仮装しながら、踊り手を中にして踊り踊りしながら、又、それぞれの村っこさ戻って行ったもんだ。



今は、自動車だのが出来て便利になったけど道具はみんなトラックに積んで、人はバスで行って、バスで戻る。

あーあ、昔のようなお山参詣は、もう戻ってくる事はないんじゃないかなあ。



これは、つい最近まであった、お山参詣の話っこだよ。